## 2019~20年度 ロータリー平和センターセミナー出席報告

ロータリー平和フェローシップ小委員会 委員長 河﨑 髙麗男

6 月 15 日(土)東京都三鷹市 ICU 国際基督教大学 東ヶ崎潔記念ダイアログハウス国際会議場に於い て、2019~20 年度ロータリー平和センターセミナーが開催され出席して参りました。

当日は明け方から雨模様で、気温も 18 度に届くかどうかの肌寒い朝 を広大なキャンパスの中、傘を差し、足元を濡らしながら国際会議場を目 指して歩く中、雨に濡れた新緑に包まれ本当に身も心も洗われる学び舎 に感慨深く多様な人々が集い多様な世界社会で平和の現場に向かう人 材養成の場に感動を覚えた素晴らしい環境を体験してきました。

第 1 部では、ホストエリアコーディネーター補佐の宮崎陽市郎氏の挨 拶で始まり、ロータリー平和センターの今後の方向性としてR財団管理委 員北清治氏の報告、ロータリー平和センタープログラムの現状と、今後の 展望と題してのパネルディスカッションが行われた。

・ロータリーは、平和に対してどう学ぶか。ポリオは全地区に委員会が 出来てスタートした。

世界の平和プログラムの支援をするために、平和と紛争解決に励む人 材の育成支援に平和フェローセンター、ロータリー平和センターの支援 が必要であり、周知するために各地区もテーマに取り組み本委員会制度 の導入を、平和フェローの支援の取り組み、平和構築・子供を育てる・世 界平和を考える時 20 年~30~50 年と先を考えながら目的に向かっ て進む心構えを持つことか必要だとの意見であった。



報告を行う 北誠治氏



パネルディスカッション

第 2 部では、ICU 日比野潤子学長は、本日が ICU 創立記念の 70 周年の日に当たりロータリー平和セ

ンターセミナーの開催に感無量との挨拶あり、TRF 平和センターBryn Styles 委員長の挨拶、Prof. Giorgiandrea Shani の概要説明があり TRF 管理委員挨拶、平和のためのヒロシマ通訳者代表で被爆者の小 倉桂子さんの基調講演で始まりました。

その後ロータリー平和フェロー9 名の 16 期生と 17 期生卒業生の 平和に関する修士論文の発表(各自20分)が18:00まで行われた。 一部タイトルを紹介します、・国連平和構築のアーキテクチャーにおける 人権規範の拡散。・不確実な時代における帰還への摸策―ジンバブエ における移民の帰還と統合—。・ウガンダのナキバレ難民定住地におけ るルワンダ難民の生活難と送還への対応。・スリランカでの平和構築:コミ ュニティの発展から見る紛争後の平和構築、その他各世界で平和をテ ーマとして活躍している素晴らしいらしい論文でした。

すべて英語での発表であったが、同時通訳でよく理解でき、単純に平 和というがその視点は多岐に渡り。「平和」という言葉に色々な意味があ るものだと感じ、ロータリーの貢献度がこれほど高いのかを知ることが出 来る様々なプログラムの中、この平和フェローの意義が私達ロータリーの 集大成ではないかと感じた有意義なセミナーでありました。

第3部は16期「ロータリー平和センターセミナー終了を祝う会」では



小倉桂子さんの基調講演



プレゼントをするフェローメンバ

修士プログラム修了証書授与式が行われ、ホストファミリーとの記念写真撮影など和やかな雰囲気であった。